

都市農村共生・対流総合対策交付金(山村活性化支援対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 妙高市

令和元年8月13日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
新潟県 妙高市	H27年度	振興山村地域内の地域資源を活用した販路が見込める付加価値の高い商品づくりに取り組み、農林業者の所得向上を図る。また、観光事業者と連携を深め、農業や里山がつくる景観や地域オリジナルの食農体験、自然体験などの機会を提供する中で、地域の魅力を高め、活性化に結びつける。

1. 第三者の意見及び、目標達成に向けた指導・助言等

- ・令和元年8月9日に事業評価を実施
- ・第三者の意見:事業実施計画の目標は達成しているが、より高い目標を設定し、それに向かって取組を進めることを要望する。

2. 低調と評価された内容・要因

【低調と評価された内容】

- ①新規開発商品により収入を得る人(人) …目標値:2名、実績値:0名(平成29年度)
- ②新規開発商品の売上額(千円) …目標値:790,000円、実績値:65,600円(平成29年度)

【要因】

≪矢代地区≫

地域内の集落から選出された委員27名で地域資源を活用した特産品づくりを開始し、メープル、サトイモ、米加工の3部会に分かれて取組を進め、米を加工した「おかき」「甘酒」、イタヤカエデの樹液を活用した「メープルサップ」「メープルシロップ」などの商品化に結びついたが、商品化に向けた過程において製造単価や品質確保の面で課題があり、商品化が遅れた。また、本格的に取組を進めていくために、新たな活動組織の構築を進めたが、組織構築が平成30年末になってしまい取組が進まなかったことが低調評価の要因として捉えている。

≪杉野沢地区≫

区、地区観光協会、青年会などの役員20名で地域内で栽培されていた「花豆」を主に特産品づくりを開始。花豆を活用したソフトクリームやアイスクリームなどの商品化に取組むとともに栽培面積を拡大し、収穫量を向上させるなどの取組を進めてきたが、販路の確保が課題であり、各種イベントでの売上げのみとなったことが低評価の要因として捉えている。

3. 目標達成に向けた方策

《矢代地区》

平成30年度について、主力商品である「おかき」の生産量拡大を図るため、活動団体である「米こめ矢代」では、製造にかかる機械(電子レンジ)を購入し増産体制を整備し、商品生産効率の向上に取り組んだ。

販路拡大のため、小売店との打合せや、商談会及び商品ラベルの作成を行った。市内直売所でおかきと甘酒の販売を本格的に開始。また、イベントへの出店等に取り組んだ結果、売上を伸ばすことができ、組織構成員にも収益を配分することができた。

《杉野沢地区》

地域資源である「花豆」の生産量拡大に向けた取組みを進めた、課題になっている販路についても、地域内に整備されている公設民営施設の「苗名の湯」での販売を開始した。また、「花豆」商品の認知度や売上向上を図るため、県内外のイベントに出店するなど、販路拡大に取り組んだ。

《市》

- 増産体制を整備するため、機械購入費(電子レンジ)や、販売拡大、販路開拓のためのイベント出店に係る旅費等の費用助成を実施した。
- 販路拡大の打合せや会議等に参加し、活動団体等と協働して取組みを進めた。

4. 改善状況

○H30年度目標値とその達成状況

•継続的な取組みにより、実施計画の目標値を達成することができた。

①新規開発商品により収入を得る人 目標値:2人 実績値:米こめ矢代…8人

②新規開発商品の売上額 目標値:790千円 実績値:米こめ矢代…764千円、杉野沢特産品生産組合…340千円 合計:1,104千円

平成30年度において、事業実施計画の目標を達成できているが、目標値の更なる向上を目指し、今年度以降も引き続き継続的な支援を行いながら、各団体と連携して取組をすすめたい。